

令和 8 年度 東京都立成瀬高等学校経営計画

東京都立成瀬高等学校長
高野 宏

1 目指す学校

(1) スクール・ミッション

高い知性と創造力を培い、広い視野をもち、品格のある豊かな人間性を養うことを教育目標とし、自立と責任、思考力、主体性を重視した教育活動を通じて、主体的に自らの人生を切り拓き、グローバルな視点をもって地域及び社会に貢献するリーダーを育成する。

(2) 教育目標

- ア 高い知性と創造力を培う。
- イ 広い視野を持ち、品格ある豊かな人間性を養う。
- ウ 若さあふれる健康な身体をつくる。

(3) スクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

スクール・ミッションに基づき編成された教育課程において、所定の単位を履修及び修得するとともに、その学修成果として以下の本校において育成を目指す資質・能力の 9 つの資質・能力を身に付け、本校で育成したい生徒像①～③に掲げる要件を満たした生徒に対して、校長が卒業を認定する。

【本校において育成を目指す資質・能力】

- ① 知識・技能…「基礎力の育成」「言語能力の育成」「進路実現力の育成」
- ② 思考力・判断力・表現力…「思考力の育成」「グローバル精神の育成」「自己キャリア向上力の育成」
- ③ 主体的に学習に取り組む態度 …「主体性の育成」「人間性の育成」「自己探究力の育成」

【本校で育成したい生徒像】

- ① グローバルな視点を持ち、地域及び社会に貢献できる、リーダーたる人物
- ② 自らの人生を自らで切り拓く逞しさや思考力を備え、自己実現ストーリーを創造できる人物
- ③ 自他を慮り、自立を追求し、責任を全うしようとする主体性のある人物

イ カリキュラム・ポリシー

本校では、生徒がグラデュエーション・ポリシーに掲げる 9 つの資質・能力を身につけるための教育課程を編成し、地域の期待に応えうる「知・徳・体の調和のとれた全人教育」を推進する進学校として、社会のリーダーを育成する教育活動を行う。

- ① 生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた丁寧で組織的な学習指導を行うことで、生徒の学力向上を図り、生徒の可能性を最大限引き出す教育を行う。
- ② 国公立大学や難関私立大学等への進学に向けて粘り強く努力し、自ら自己実現に向けて考え行動する進路指導を行う。
- ③ きめ細かい観察に基づく丁寧な生徒指導を行うことで、自他の存在意義や価値を認め、社会の成り立ちやルールを正しく理解できる生活指導を行う。
- ④ 生徒会活動、部活動、学校行事等をとおして豊かな人間性とリーダーシップを育み、国際交流活動等をとおして世界的な広い視野をもった生徒を育てる。
- ⑤ 地域に根ざした探究活動や体罰やいじめの未然防止の徹底及び特別支援教育の整備に取り組むことで、地域から信頼される教育を行う。
- ⑥ 生徒の資質・能力を育成する観点から、生徒の良い点や変容等を評価するため、各教科・科目で評価の場面や方法を工夫して評価を行う。そして、本校で育成を目指す資質・能力を踏まえた観点別評価により総合評価を行う。また、外部の模擬試験等により生徒の実力等を分析し、それぞれの個に応じた進路実現に活かす。

ウ アドミッション・ポリシー

本校は、スクール・ミッションに基づき編成された教育課程の実施をとおして、自己の特性や能力を最

大限に伸張させ、情報化・グローバル化する社会の一員として必要な資質・能力を身に付けた「知・徳・体」の調和のとれた地域社会に貢献できる社会のリーダー育成を目指す。高校入学の目的及び進路希望についての強い意志をもって、その実現に向けて粘り強く努力できる生徒の入学を期待する。そのうえで、次の①に該当し、②又は③の項目に該当する生徒の入学を希望する。

- ① 学習に積極的に取り組み、教科の成績が優れている生徒
 - ② 部活動等において、中心となって積極的に活躍し、学業との両立を実践できる生徒
 - ③ 生徒会活動、学校行事、ホームルーム活動等においてリーダーとなる資質をもつとともに、学業との両立を実践できる生徒
- ※ 推薦選抜においては、上記の項目に加え、コミュニケーション能力に優れ、論理的な考察ができる生徒が望ましい。

2 中期的目標と方策

(1) 学力向上を図る教育の推進

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の研究開発に各教科が組織的に取り組み、生徒の学習に対する興味・関心を高め、自ら積極的に学習しようとする意欲と態度を育成する。
- イ 指導内容の変更や新しい指導方法に対応するため、全教員が授業改善を意識し、教員相互の授業参観及び校内研修会により授業力の向上を図る。
- ウ 生徒による授業評価や模擬試験・定期考査について教科で組織的に分析し、結果を授業に反映させる。
- エ 探究研修部が主導し、全教員が「総合的な探究の時間」及び教科横断的な授業に取り組む。
- オ 家庭での学習習慣の定着に向けた計画的組織的な指導を行う。
- カ 大学入試制度や生徒の学力に応じて教育課程の改善を図る。

(2) 進路指導体制と指導内容のさらなる充実

- ア キャリア教育・進路行事の内容の充実を図るとともに、3年間を見通した系統的・計画的で組織的な進路指導を行う。
- イ 長期休業中の進学対策のための補講・講習、学期中の補習・講習等を組織的に実施し、生徒の国公立大学や難関私立大への進学希望を実現させる。
- ウ 保護者会や学年通信等で、学年や時期に応じた適切な情報を保護者に提供し、学校、生徒及び保護者で進路目標や学習方法について情報共有を行う。

(3) 心身ともに健全な生徒の育成

- ア 基本的な生活習慣や社会規範の確立に向けた指導を徹底するとともに、「人間と社会」における体験活動やボランティア活動をとおして、他者を思いやる心の醸成と自律的な行動がとれる資質の育成を図る。
- イ 挨拶の励行、遅刻指導や身だしなみ指導を継続して行い、落ち着いた学習・生活環境づくりを推進する。
- ウ 教育相談機能を充実させ、きめ細かい生徒観察と丁寧な生徒対応を行い、生命の尊重やいじめ・体罰の未然防止について組織的に取り組むとともに、特別支援教育の充実を図る。
- エ 避難訓練や防災教育等をとおして、自他の生命と安全に対する意識を深め、災害時等に地域から頼られる存在となる指導を行う。

(4) 「東京グローバル人材育成指針」を踏まえたグローバル人材の育成と基盤となる英語力や論理的思考力の育成

- ア オーストラリア海外研修旅行、海外修学旅行の充実を図り、海外からの留学生の受入を定着させて国際交流活動を充実させるとともに、英語4技能の充実を図る。
- イ 「総合的な探究の時間」を充実させ、国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成を図る。

(5) 教育活動の積極的な発信と募集活動の推進

- ア ホームページの内容の充実とタイムリーな更新、授業公開、学校見学会、学校説明会等の充実と、部活動体験、中学校の体験授業受け入れ、学校評価アンケート結果のホームページでの公開等により、中学生や地域の方々、さらには広く都民に積極的に本校の教育活動を紹介し、本校への理解を深めてもらうとともに効果的な募集活動を実施する。
- イ 保護者会や三者面談、保護者対象の進路講演会等を充実させ、学校の教育活動に対する保護者からの信頼と理解を得る。

(6) 「東京都学校教育情報化推進計画」に基づくデジタル技術を活用した教育の推進

- ア 生徒の学ぶ意欲に応え、その力を最大限に伸ばすためのツールとして、教育の ICT 化を推進する。
- イ ICT を活用して、一人ひとりの理解度や進度に応じて個別最適化された学びや生徒同士の主体的・対話的な学びなどを実現し、「知識習得型」から「価値創造・課題解決型」の学びへの転換を図る。
- ウ 45分授業に対応するため、ICTを活用し、板書や教材配布の時間の省くとともに、生徒同士の情報共有・意見交換から主体性と新たな気づきを引き出す。

(7) 学校の組織力の強化

- ア 学校全体として進路指導に取り組む体制づくりを推進する。
- イ 教職員のライフ・ワーク・バランスを推進するため、校務の効率化と業務縮減に取り組む。保護者コミュニケーションシステムを保護者に周知し、Teams、Forms及びリアテンドント等の活用に関する校内研修を実施し、DXを推進する。また、部活動指導員等外部人材の活用を図る。
- ウ 教職員の服務規律の徹底を図る。
- エ 新学習指導要領及び本校グランドデザインに則って、カリキュラムの実施に向けて体制の強化を図る。また、教育相談機能の強化を目指して、教育相談会議などの校内研修等の充実を図る。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ① 「チャイムで始まり、チャイムで終わる授業」を推進する。
- ② 45分授業に対応するため、ICTを活用して密度の高い授業を行う。
- ③ 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から教員のファシリテート能力の向上を図る。
- ④ 生徒の希望進路の実現に向けて、授業改善に全教員で取り組み、進学校に相応しい授業を提供する。その方策として、以下に掲げる取組を実施する。
 - ・ 授業の冒頭で前時の復習及び本時の目標確認を行い、授業の構成を理解させた上で授業を開始する。
 - ・ 単に知識を確認する短答形式の発問だけでなく、思考力を試し、説明を要する発問を行う。
 - ・ 発問、机間指導及び小テスト等により生徒の学力を把握し、生徒の理解度に応じた授業を行う。
 - ・ 単なるプリントの解答提示や講義メモではない授業の再現性のある計画的な板書を行う。
 - ・ 板書を写させ、講義を聴かせるだけの一方通行の授業ではなく、生徒の発言を受けて内容を深化させる双方向の授業を行う。
 - ・ 生徒の興味・関心を引き出し、主体性を育てる授業を行う。
 - ・ 授業中に生徒の活動の時間を確保し、演習や生徒間や生徒・教員間で対話のある授業を行う。
 - ・ 定期考査・模擬試験の結果について教科会で組織的に結果分析を行い、学習指導の改善を図る。
 - ・ 自学自習の意識を高め、家庭学習時間を増やす指導を行う。
 - ・ 各学期に1回以上、見学のねらいを明確にした教員相互の授業見学を行う。
 - ・ 他教科と連携して教科横断的な授業に取り組む。
 - ・ 教育課程の改善を行い、生徒の希望進路の実現及び中途退学の未然防止に努める。
- ⑤ 「総合的な探究の時間」の取組を推進し、充実させるとともに他校との連携を強化する。
- ⑥ 「Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education（以下、GE-NET EEとする。）」指定校として、英語外部検定試験の受験促進と英語4技能の向上を図る。
- ⑦ 45分7時間授業の成果があがるように課題を分析し、改善に取り組む。

イ 進路指導

- ① 進路指導部を中心として、国公立大学進学及び難関私立大学進学を叶えられるよう組織的、計画的に指導にあたる。
- ② 生徒個人面談に加えて三者面談・保護者面談、保護者対象の進路研修会を充実させ、保護者と連携した進路指導を推進する。各学期に面談週間を設け、個別最適の進路指導の強化を図る。
- ③ 平日の放課後、長期休業中において、進学対策講習、学力定着補講を効果的に実施する。
- ④ 「総合的な探究の時間」の内容を充実させ、学校推薦型選抜や総合型選抜に早期に取り組むとともに、受験方法の多様化に対応し、生徒の受験機会を増やす。

ウ デジタル技術を活用した教育活動の推進

- ① 統合型学習支援サービスを活用した「学び方改革」と「教え方改革」を推進する。
- ② 統合型校務支援システムを活用した「働き方改革」を推進する。

エ 生活指導、保健指導

- ① 基本的な生活習慣の確立、特に遅刻防止の指導を全教員で徹底して行う。そのため、始業時、授業開始時や学年集会などで、教員が率先垂範し、遅刻防止の意識付けを行う。
- ② 身だしなみ・服装等の指導を徹底し、学校生活の規律を遵守させる。
- ③ きめ細かい生徒観察による迅速かつ適切な生徒対応を行い、生徒同士の良好な人間関係構築を支え、自己肯定感を育む。また、「いじめ総合対策プラン【第3次】」を踏まえたいじめ・体罰の未然防止研修の実施と「SOSの出し方に関する教育」について、学級活動、公民、保健体育等の学習と関連させた授業を実施する。
- ④ 日常の美化活動を徹底して行い、落ち着いた学習・生活環境づくりを推進する。
- ⑤ 薬物乱用防止、成瀬高校SNSルール等により、健全な社会観を育成する。
- ⑥ 交通安全等のセーフティ教室を開催し、特に自転車の乗り方については指導を徹底するとともに、ヘルメット着用の指導を徹底し、登下校時の自転車事故減少を目指す。

オ 特別活動

- ① ホームルーム活動や生徒会活動、部活動、学校行事等で生徒の自主性や参加意欲、達成感を育てるとともに、教科とも連携しながら主権者教育の充実を図る。
- ② 部活動加入を促進して生徒の学校への帰属意識を高め、部活動を最後までやり抜く強い精神力を養う指導を行い、教科指導とも連携して文武両道を実現する。

カ 健康づくりの推進

- ① 家庭や地域と連携して健康教育を推進し、健康、安全、環境、食育等に対する意識を高め、自らの健康を保持・増進させる態度を育てるとともに、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づく、体力向上及び健康保持増進に向けた意識を培う。
- ② 不登校・発達障害等の特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に生徒の目線に立った支援をスクールカウンセラーや外部機関と連携して行う。

キ 学校運営

- ① 授業改善と遅刻防止の指導を徹底し、生徒の進路希望実現と進学実績の向上に資する。
- ② 探究研修部主導による組織的な「総合的な探究の時間」の実施と指導内容の充実を図る。
- ③ 統合型校務支援システム及び統合型学習支援サービスを活用し、校務及び教育活動の効率化を図り、働き方改革を推進する。
- ④ 新学習指導要領、教育相談、授業力・進路指導力向上等に関する校内研修会を充実させる。
- ⑤ 「進学指導研究校」で培った指導経験を踏まえ、引き続き進路指導部を中心に組織的な進路指導体制の確立に取り組み、進路指導の実践力と教科指導力を高め、生徒の進路実現を図る。
- ⑥ 「理数研究拠点校」については、理数研究拠点校事業推進委員会を中心に取組を充実させ、理数教育への興味・関心を引き出し進路希望の選択肢を広げさせるとともに、生徒の自律的・主体的研究活動を支援する。
- ⑦ 「GE-NET EE」として、生徒の「使える英語力」の向上を図るため、特に「聞く」、「話す」に重点を置いたきめ細かい指導を行い、進路実現に向けた英語力向上を図る。
- ⑧ 「海外学校間交流推進校」として、台湾修学旅行、オーストラリア研修旅行の事前・事後学習及び現地校との継続的交流によって、英語力や国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力を有するグローバル人材を育成するとともに国際理解教育を促進する。また、台湾からの長期留学生受入・グローバルフレンドシッププログラム（旧東京体験スクール）などの短期留学生の受入などの受入体制の整備を推進する。
- ⑨ 経営企画室との緊密な連携を図りながら、入学選抜業務の適正実施を目指す。
- ⑩ 予算編成・執行、施設管理、学事業務、窓口業務等経営企画室の業務の適正化と充実化を図る。
- ⑪ 校務の効率化と業務縮減などの教職員提案を積極的に取り上げ、ライフ・ワーク・バランスの取組を推進する。

- ⑫ 服務事故防止研修等を通じて服務規律を徹底する。
- ⑬ 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」を踏まえた事務の見直し・縮減、校務の改善を実施する。
- ⑭ 「海外探究フィールドワーク指定校」を活用し、海外の学校と連携した探究活動を行う。

ク 地域連携

- ① 交通安全教室・防災教育、ボランティア体験活動及び地域美化活動等の体験学習の機会を通して、警視庁町田警察署・東京消防庁町田消防署成瀬出張所・町田市役所・成瀬高ヶ坂地区自治会及び保育園・幼稚園・小学校・中学校等など地域の諸教育機関との活発な連携を行う。
- ② 学校開放事業、避難所連絡会等の地域連携活動を通して、地域に開かれた学校を目指す。

ケ 募集広報活動

- ① 東京都教育委員会指定事業を学校の特色の中心に据えて、学校広報・生徒募集活動を推進する。
- ② 学校の情報を随時ホームページに掲載し、学校の教育活動に対する保護者の理解と協力を得るとともに、生徒の活躍を学校外にも広く周知する。
- ③ 授業公開、学校見学会、学校説明会及び部活動体験等により、中学生及び地域に積極的に本校の教育活動を紹介していく。
- ④ 部活動の活動状況と進路指導・実績について定期的に発信し、中学生の本校に対する関心を高める。

(2) 重点目標

ア 学校経営・学校運営

- ① 客観的なデータに基づいた学校経営・分掌業務を推進する。
- ② 各分掌・各学年の目標・課題を年度初めに設定し、学期ごとにPDDCA会議を開催して、組織的に成果と課題を共有するとともに学校運営連絡協議会において報告を行う。
- ③ 教務部の計画に基づき、全教職員で学校見学会及び学校説明会等の充実を図り、出前授業、中学校訪問及び各種説明会等に積極的に参加する。
- ④ 部活動や学校行事等、ホームページ等における発信内容を魅力あるものにし、更新回数を増やす。
- ⑤ 「GE-NET EE」、「理数研究拠点校」、「海外学校間交流推進校」、「海外探究フィールドワーク指定校」及び「進学指導の充実事業推進校」の東京都教育委員会指定の事業を推進し、本校の教育活動の質と生徒の学習意欲の向上を図るとともに希望進路の実現に繋げる。
- ⑥ 指定事業に関連した科学の甲子園のコンテストやTEP-CUP等の大会に出場し、学校広報・生徒募集活動を展開する。
- ⑦ 「学校における働き方改革プラン」及び「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、教職員の意見も取り入れながら業務改善を行う。マイ定時退庁日等の設定、夏季休暇や年休の取得促進等により、在校時間の縮減を図る。
- ⑧ 各教科で選択科目の講座について検討を行い、生徒が必要とし、多くの生徒が選択する講座を開講するとともに、持ち時間数に応じた教科定数の見直しを図る。

イ 学習指導

- ① 板書と講義中心の受動的・一方通行的な授業形態から脱却し、発問と生徒の活動時間を増やし、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)に根ざした授業を行うとともにファシリテート能力の向上に努める。
- ② 教科・科目間の連携を強化し、探究を視野に入れた教科横断型授業を推進する。
- ③ 「総合的な探究の時間」を全校体制で推進し、3年間の指導計画に則った内容の充実を図る。
- ④ 学期に1回以上、見学のねらいを明確にした教員相互の授業見学を行い、感想を管理職に報告する。
- ⑤ 各教科で講習内容を検討し、進路指導部を中心に全校体制で効果的な講習を実施する。
- ⑥ 早期に長期休業日中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画の作成を促す。生徒にとって魅力ある講座を開講することで講座数を増やし、夏季休業中の学習習慣の定着を図る。
- ⑦ ICTを活用し、効率的・効果的な授業を実践する。
- ⑧ 難関大学進学を目指す上位層の学力向上とともに、中間層・下位層の学力の底上げも図る。とくに、下位層の生徒に対する指導方法及び補習方法の改善を図り、単位未修得者の減少を図る。

ウ 進路指導

- ① 進路指導部を中心とした組織的な進路指導体制を確立し、進学指導対策会議等を開催し、進路指導部、学年及び教科が一体となった進路指導を行う。

- ② 進路指導部及び各教科が模擬試験等の結果分析を行い、進学指導対策会議等で分析結果について進路指導部、学年及び教科で共有し、進路指導の改善に結びつける。
- ③ 国公立大学、難関私立大学への生徒の進学希望を叶えるため、教員による大学入試研究を促進する。高い志を実現するため、志望者の集団形成・出願者の増化をめざす進路指導体制を構築する。
- ④ 三者面談又は保護者面談を積極的に行い、学校と家庭の共通理解を図る。

エ 生活指導

- ① 日々の教育活動を通じて公共心を高め、登下校のマナー、身だしなみや遅刻指導を徹底する。
- ② 登下校時の自転車事故防止・ヘルメット着用推進を教職員全体で推進する。
- ③ 生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえてSNSの適切な利用について生徒の注意喚起を行う。
- ④ 気になる生徒については、些細なことでも見守りリスト等で情報を共有し、サインを見落とさないようにするとともに、SOSの出し方について周知する。

オ 特別活動・その他

- ① 生徒の主体的活動を支援し、HR・部活動・委員会活動・学校行事の活性化を図り、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、生徒に成就感・達成感を享受させる。
- ② 計画的・効率的な部活動運営を推進し、複数の部で都大会（都ベスト32以上）出場を目指す。
- ③ 保健部、養護教諭、スクールカウンセラー及び特別支援教育コーディネーターを中心とした教育相談委員会において特別な支援を必要とする生徒について見守りリスト等により情報共有を行う。対処法については必要に応じて関係機関とも連携し、全教職員による教育相談会議や校内研修等で情報の共有化を図り、合理的な配慮を組織的に行う。
- ④ 首から上の事故については、原則、教員が医療機関に搬送し、受診させるとともにすぐに管理職・保護者に報告する。

数値目標	参考 昨年度数値
(1) 学校運営・組織	
① 学校評価の満足度 生徒 90%以上 保護者 94%以上	① 学校の満足度 生徒 89.0 % (1年) 86.0 % (2年) 92.0 % (3年) 保護者 93.0 %
② 服務事故防止研修以外の校内研修 6回以上	服務事故防止研修以外の校内研修 6回
(2) 学習指導	
① 授業に対する満足度 生徒・保護者とも90%以上	生徒 91.0 % 保護者 88.0 %
② 授業研究及び研修の実施 20回以上実施	授業研究及び研修の実施 22回実施
③ 家庭学習時間 1学年 2時間以上 20% (学年+1時間) 2学年 3時間以上 30% 3学年 3時間以上 60%	1学年 2時間以上 14.0 % 2学年 3時間以上 5.0 % 3年生 3時間以上 58.0 %
④ 教員相互の授業観察 年間3回以上 (学期1回以上)	年間 2.53回
(3) 進路指導	
① 長期休業日中の講習 夏期講習 ・全学年で実施 ・生徒提示5月中 ・75講座以上の開設・受講者延べ1,000人 冬期講習 ・全学年で実施 ・30講座以上の開設 ・受講者延べ200人 春期講習 ・新2・3年で実施 ・10講座の実施 ・受講者延べ100人	夏期講習 37講座 (3年) 22講座 (2年) 8講座 (1年) 67講座 (全学年対象) 受講者延べ856人 冬期講習 のべ25講座 受講者延べ141人 夏冬計92講座開設 受講者延べ997人 春期講習 のべ19講座 受講者延べ105人
② 模試分析会・模試報告会 年間2回以上実施	② 模試分析会 1回 模試報告会 2回

③ 進学実績（現役） ア 大学入学共通テスト受験者数 234人(90%)以 イ 国公立大学：受験者数 21人 ウ 国公立大学等合格者 7人 エ 難関私立大学(早慶上理)合格者 6人 オ G M A R C H合格者数 70人	③ 進学実績（現役） ア 大学入学共通テスト受験者数238人(90%) イ 国公立大学受験者数 21人 ウ 国公立大学等合格者 6人 エ 難関私立大学(早慶上理)合格者 6人 オ G M A R C H合格者数 62人
(4) 生活指導	
① 部活動加入率（1・2年） 85%以	部活動加入率（1・2年） 81.9%
② 年間遅刻者数 各学年、前年度より減少させる。	1年 546回 2年 1680回 3年 970回 全体 3196回
(5) 指定校事業関係	
① CEFRA2以上 70%以上（1・2年生）80%以上（3年生）	① CEFRA2以上67.4%（1・2年生）76.2%（3年生）
(6) 募集・広報・地域活動	
① 本校での学校説明会・見学会等参加数延べ 3,300人	①学校説明会・見学会等参加数延べ3,107人
② H Pアクセス数 前年度よりアクセス数増加 H P更新回数 前年度より更新回数増加	1011178回 449回
③ 応募倍率 推薦枠 2.0 一般枠 1.3	1.84倍 1.20倍
(7) 施設設備管理・経営企画室運営	
① 管理運営費と自律経営推進予算の執行率 98%以	95.1%
② 一般需用費のセンター契約集約率（%） 66%以	65.1%
③ 令和8年度予算編成 2月5日	2月完了